

第6学年社会科学学習指導案

日 時 令和7年 11月 27日 (木)

第5校時 13:30～14:15

対 象 第6学年 3組 24名

授業者 鈴木 幸大

会 場 3階 6年3組教室

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々 (7/8時間)

2 単元の目標

- 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を契機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解することができる。[知識・技能]
- ◎ 我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することができる。[思考力・判断力・表現力]
- 我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて、主体的に追究し、解決しようとしている。[学びに向かう力・人間性]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化、自由民権運動と国会開設について理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化、自由民権運動と国会開設について考え、表現している。 ② 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、自由民権運動と国会開設までの動きなどを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや、世の中の様子の変化を考え適切に表現している。	① 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、自由民権運動と国会開設などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、以下のとおり学習指導要領の第6学年の内容(2)に基づく。

- (1) 我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

(シ) 遺産や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

(2) 教材観

本単元での主な学習内容は、江戸時代末期から明治時代初期にかけての学習であり、黒船の来航、明治維新、富国強兵による政府の施策などを具体的に調べることを通して、当時の日本が欧米の制度や文化を取り入れて様々な改革を行い、近代化を進めたことを理解することがねらいとなっている。具体的にはペリーの来航をきっかけとする開国と国内の混乱、そして倒幕、明治新政府の成立と諸改革、欧米の文化や思想について調べる。また、時代を中心となった人物たちが何を思い、願い、行動していったのかについて迫るとともに、時代の流れに翻弄されながらも生きていた多くの人々に目を向けることも重要な要素として活動に取り入れる。

また、現在につながる制度や文化があることや、それらは明治時代に生きた人々の努力があったからこそであることに気付かせることで、先人や国に対する誇りと愛情がもてるようにしたい。

5 児童について

目指す児童像（高学年）

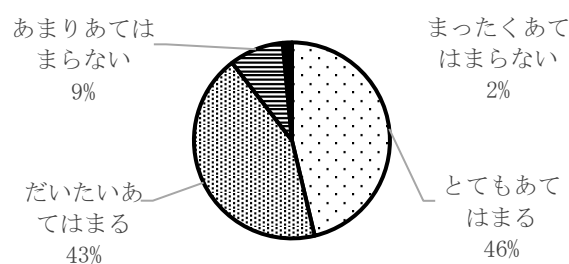
学びを自ら設計し、他者とともに学びを深めていく子

(1) 児童観

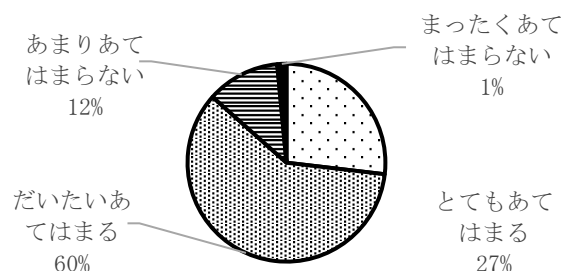
1 学期末に取ったアンケートでは、「授業で友達と話し合いながら学ぶのは楽しいと感じますか」の問いに対して、97%の児童が「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した。日ごろから話し合い活動を取り入れた授業が多く、その価値や楽しさを実感していることが分かる。また、「友達と意見を出し合うことで、自分にはなかった考えに気付くことがありますか」では、約90%の児童が肯定的に捉えており、他者の意見を通して視野を広げる経験をしていることがうかがえる。ただし、「とてもあてはまる」と回答した児童は46%にとどまり、他者の考えに触れて深める姿勢には個人差も見られる。

一方で、「自分の意見を、理由を付けて相手に伝えることができますか」では、「とてもあてはまる」が27%にとどまった。これは、「先生や友達の質問に対して、自分なりの考えをも

友達と意見を出し合うことで、自分にはなかった考えに気付くことがありますか

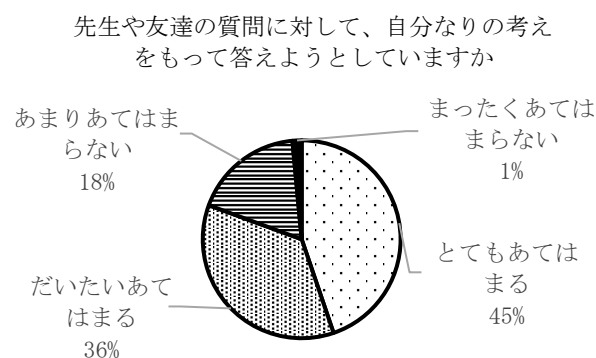


自分の意見を、理由をつけて相手に伝えることができますか



って答えようとしていますか」の「とてもあてはまる」が 45%であることと比較すると、自分の考えはもっていても、その根拠を明確にして伝える力に自信がない児童が多いことを示している。

また、社会科に関する項目では、「調べたことをグループでまとめたり、協力して発表したりするのが好き」が 85%、「学習内容と身の回りや社会情勢と関連付けて考えることがある」が 83%、「学習を通して自分の考えが深まったと感じたことがある」が 91%というように、社会科が目指す「主体的・協働的に学び、思考を深める姿」に近づいている様子も見られる。



(2) 目指す児童の姿

これらの結果から、今後さらに育成を目指したい児童の姿としては、

- ・「自分の考えを、根拠をもって相手に伝えることができる児童」
- ・「社会の出来事や歴史の背景などを、自分なりの視点で深く考えることができる児童」

が挙げられる。これらの力を高めるためには、話し合いの中で理由を問う発問や、根拠を明確にさせる言語活動の工夫を求められる。また、現実の社会問題や身の回りの出来事と関連付けた探究的な学びを通して、思考の深まりをさらに促していきたい。

6 研究主題に迫るための手だて

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
学習スタイルの違い	・グループで学習を進めると他のことに意識が割かれ、集中しにくい。または、1人で進めると見通しがもてず、進めることができない。	・1人でやる、グループでやるなど自分に合ったやり方を選択できるようにする。 ・「個別の問い」を友達と共有する時間を与え、自分が立てた問いに自信をもたせる。さらに、不安がある児童はグループで取り組むことができるように支援する。 ・学習の見通しを立てたり、自分の言葉でまとめたりすることが苦手な児童には、補助ワークシートを用意する。
興味・関心の違い	・調べた内容のまとめが詳しかったりそうではなかったりと、個人によって差がある。	・興味関心に応じて、調べる順番や時間配分を事前に選択できるようにする。 ・毎時間の振り返りを良く書いている児童のノートを印刷して毎時間ごとに配布し、調べ学習に対するモチベーションを高め、知識の定着に差が開かないようにする。

7 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）[: 個別最適な学び : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 〈評価方法〉
1 つかむ	◇江戸時代と明治時代の資料から読み取り、読み取ったことをもとに短期間の間に大きな変化があったことに気付く。 ○江戸時代と明治時代の日本橋の絵などを比較し、変わった点を探す。 20年ほどの間に、なぜ日本はこんなに大きく変わったのだろう。 ○大きな変化の原因を予想し、学習問題をつくる。さらに、学習計画を立てる。 【学習問題】 新しい国づくりを目指した人々はどのように国づくりを進めていったのだろう。 学びの個別化・個性化 開国・倒幕 大久保利通の政策 自由民権運動 憲法と国会開設	◆「なぜ?」「どのように?」「どのよう?」といった課題意識を高めるため、同じ場所の時代的変遷を示す資料を提示する。 ◆児童が、予想をもとに学習計画を立てられるよう、江戸時代の既習事項を活用して予想と照らし合わせて考える活動を取り入れる。	【評価規準】 〈評価方法〉 【態度】① 〈発言・ノート〉
2 5 調べる	○自分の課題をA～Dの中で選択する。 A 開国・倒幕 ◇「ペリー来航」によって鎖国をやめ、条約を締結し、外交が始まったことによる人々の生活の変化、そして江戸幕府が討幕されるまでに至ったことを理解する。 ○アメリカとの条約締結と社会の変化を調べる。 ○本時の活動を振り返る。 B 大久保利通の政策 ◇大久保利通をはじめとする新政府が富国強兵の考えをもとに進めた政策を理解する。 ○大久保利通が行った4つの改革「学制」「殖産興業」「地租改正」「徴兵令」について調べる。	◆学習の方向性を明確にし、理解の定着を図るために、学習問題との関わりを意識するよう声かけをする。 ◆自ら学び進めることが苦手な児童には、補助ワークシートを用意する。 ◆本時の振り返りでは、当時の人々はどういう思いや願いをもっていたか想像させ、振り返りに盛り込むように声をかける。	

	○本時の活動を振り返る。 C 自由民権運動 ◇政府に対して不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことを、板垣退助の願いや行動と関連付けて理解する。 ○板垣退助と自由民権運動について調べる。 ○本時の活動を振り返る。 D 憲法と国会開設 ◇伊藤博文らがつくった大日本帝国憲法では天皇に強い権限が与えられたことや、選挙権をもつ人は国民の一部だったことを理解する。 ○第1回帝国議会や第1回選挙、憲法発布式などの資料から、自由民権運動後の政治はどのように行われたか調べる。 ○本時の活動を振り返る。		【思・判・表】 ① 〈発言・ノート〉
6 まとめる 	◇学習問題について調べてきたことを整理し、明治維新前後の時代は、どんな時代だったかをまとめることができる。 学習問題について調べてきたことを整理し、どのような時代だったかまとめよう。 ○学級全体で、これまで学習してきたことを振り返る。 ○板書で整理した内容をもとに単元全体のまとめを考える。 新しい政府のもと、富国強兵などの改革で日本を近代化させ、欧米に負けない強い国を目指した時代。 ○まとめを全体で共有し、改めて追究していきたい「個別の問い」を立てる。 学びの個別化・個性化 開国・倒幕 大久保利通の政策 自由民権運動 憲法と国会開設	◆簡潔に時代背景を捉えたまとめをするため、単元で学んだ時代を「～時代。」と語尾を指定する。 ◆友達のまとめと比較し、足りないところを補うためには何を調べる必要があるのかという視点を提示する。	【知・技】① 〈発言・交流・ノート〉

7 追究する (本時) 	◇前時に立てた「個別の問い」をもとに、自分の課題を選択したうえで、追究することができる。 調べたことを振り返り、明治維新での世の中の変化をくわしくまとめよう。 ○前時に立てた「個別の問い」をもとに追究する。 ①開国と倒幕 ②大久保利通 ③自由民権運動 ④国会と大日本帝国憲法	◆年表やこれまでの学習で使った資料を示し、学習したことを全体で振り返る。 ◆前時までで学習してきたこと同士のつながりを意識させる発問をする。	【思・判・表】 ② 〈発言・交流・ノート〉
8 追究する  	◇追究したことを踏まえ、新しい国づくりを進めた出来事を1つ選び、スライドにまとめることができる。 ○新しい国づくりを進めた出来事を1つ選び、テンプレートを参考にまとめる。 ○グループで発表し、感想を述べ合う。 ○全体で共有する。 (例)大久保利通の政策は、外国を意識し、日本を強くすることを目指したが、一部の人々からは不満が生まれ、争いに発展した。やがて、反対意見を示す方法が武力から言論に変わり、憲法や国会など今の日本に近い政治の仕組みが整えられた。 ○単元の活動を振り返る。	◆年表やこれまでの学習で使った資料を示し、学習したことを全体で振り返る。 ◆テンプレートを付けた Canva を全体に共有する。 ◆30 秒で発表できるようにまとめるよう声をかける。	【知・技】① 【思・判・表】 ② 〈発言・交流・ノート〉

8 本時（全8時間中の第7時）

(1) 本時の目標

明治政府の人々はどのように新しい国づくりをすすめていったのかについて、さらに「個別の問い」をつくって追究し、まとめることができる。

(2) 本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

学習形態	○学習内容・学習活動	◆指導上の留意点、配慮事項 【評価規準】〈評価方法〉 手だて
導入	○前時の振り返りを見て、本時の学習のすすめ方の計画を立てる。 ・まとめの進度、学習内容をよく整理して記述している児童の振り返りを読む。 ・学習問題、キーワードを全体で確認する。 調べたことを振り返り、明治維新で の世の中の変化をまとめよう。	◆自分の取り組み方と他者の取り組み方を比較したり参考にしたりすることを促し、本時の見通しをもちやすくする。 他者参照 ◆ペリー来航、大久保利通の改革、自由民権運動、国会と大日本帝国憲法といったキーワードが書かれた年表と学習問題を確認することで、学習してきた内容を思い出し、追究場面に活かせられるようにする。 既知・既習事項の確認
展開  	○前時で立てた「個別の問い」をもとに追究する。 ・個人、グループにわかれて、問いについて新たに調べる。 ①開国と倒幕 ②大久保利通 ③自由民権運動 ④国会と大日本帝国憲法	◆前時から「個別の問い」を立てることに課題がある児童には、授業外でも声をかけ、一緒に問いを立てるようにする。本時では、前時に書いた自分のまとめを再度確認し、活動にスムーズに参加できるようにする。また、前時終了後、個別に声をかけ、不安感が強い児童には補助ワークシートを用意する。 学習材 ◆タイマーを黒板に設置し、時間配分を考えながら、調べることができるようにする。 学習過程
終末	○本時を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 T: 国づくりをすすめた人々はどんな思いで取り組んでいたのでしょうか。 S: 外国に負けたくない気持ちが大きかったと思います。 S: その中でも不満があったのも事実だと知りました。	◆歴史的事実をただ抑えるだけでなく、人々の思いや願いに注目させる。思いや願いがあったからこそその事実であると意識させることで、事実と事実が繋がっていることを理解させやすくする。 ◆机間指導中に歴史上の出来事のつながりを見いだせている児童がいれば、その児童の振り返りを紹介する。 【思・判・表】②

	T: 当時の人々の思いや願いに注目するとよりまとめやすくなりますね。 次回、改めて学習のまとめをしていきましょう。	・明治政府の人々はどのように新しい国づくりをすすめていったのかについて、友達の考えやまとめ方を参考にしながら適切に表現している。 〈発言・交流・ノート〉
--	---	--

(3) 本時の評価

評価規準	
明治政府の人々はどのように新しい国づくりをすすめていったのかについて、友達の考えやまとめ方を参考にしながら適切に表現することができている。【思考・判断・表現】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
「十分満足できる」 自分のやり方と他者のやり方を比較したり参考にしたりして、江戸時代末期から明治時代初期にかけて整えられた政治の仕組みによる世の中の様子の変化について言及するだけでなく、現代と比べて生じた疑問などを踏まえて自分の考えをまとめている。	・他者との意見交流を促し、より分かりやすい表現を工夫させる。 ・全体で良い手本として紹介することで、意欲を高める。
「おおむね満足できる」 自分のやり方と他者のやり方を比較したり参考にしたりして、歴史用語の説明だけでなく、江戸時代末期から明治時代初期にかけて整えられた政治の仕組みによる世の中の様子の変化について言及している。	・手本から自分ができそうな方法を参考にし、実践するよう促す。
「努力を要する」 教員の支援のもと、他者のやり方を参考にしたが、歴史用語の説明に留まっている。	・できているところを褒め、自信をつけさせる。 ・補助ワークシートを用意し、やるべきことを可視化する。

(4) 板書計画

